

2021年度 第2四半期(上半期)報告 説明資料

2021年11月24日

明治安田生命保険相互会社



I.	2021年度 第2四半期（上半期）報告のポイント	P.2
II.	明治安田生命グループの業績	P.3
III.	明治安田生命単体の業績	P.9
IV.	スタンコープ社の業績【参考】	P.19
V.	業績見通し	P.21
VI.	新型コロナウイルス感染症の拡大に対する当社の対応	P.22
VII.	「MY Mutual Way I 期」(2021-2023年度) 経営目標の進捗状況	P.23

グループ保険料
1兆3,839億円

前年同期比 : 407億円増 (+3.0%)

- ・ 明治安田生命単体における一時払保険の販売量増加が主な要因

グループ基礎利益
2,845億円

前年同期比 : 284億円減 (△9.1%)

- ・ 健康サポート・キャッシュバック特約の還元額増加、有価証券償還益の反動減、米国子会社の新型コロナによる保険金等支払いの増加が主な要因

連結ソルベンシー・マージン比率
1,132.3%

オンバランス自己資本
4兆1,042億円

前年度末差 : 20.2ポイント減

前年度末差 : 1,987億円増

- ・ 健全性をあらわす両指標は、いずれも高い水準を維持

業績見通し

グループ・単体ともに「増収・減益」の見通し
(2020年度決算報告時から変更なし)

1. グループ保険料①

■ グループ保険料の状況

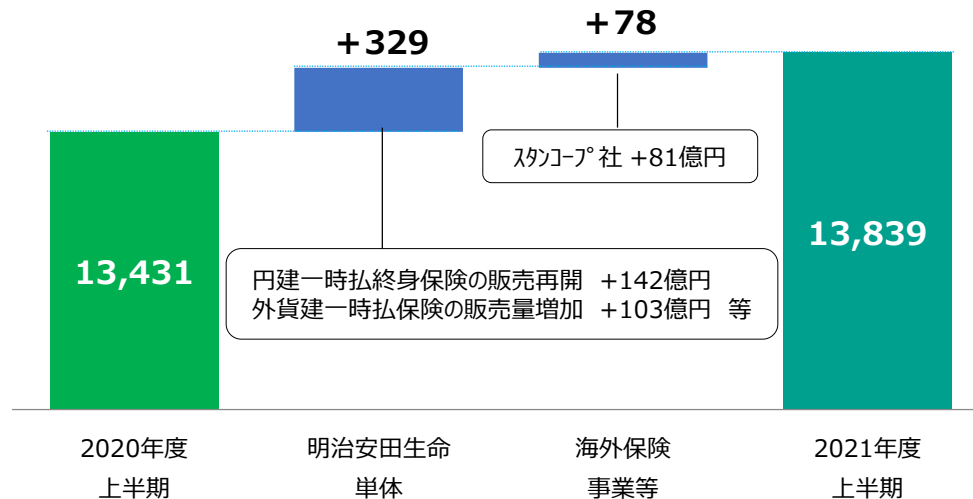
(単位：億円)

	2020年度 上半期	2021年度 上半期	前年同期比
グループ保険料 (注1)	13,431	13,839	+3.0%
明治安田生命単体	11,758	12,088	+2.8%
海外保険事業等 (注2)	1,673	1,751	+4.7%
うちスタンコープ社	1,554	1,635	+5.2%

- グループ保険料は、明治安田生命単体における円建一時払終身保険の販売再開(6月から) や、外貨建一時払保険の販売量増加を主因として、1兆3,839億円と前年同期から3.0%の増収

■ グループ保険料の主な増減要因

(単位：億円)

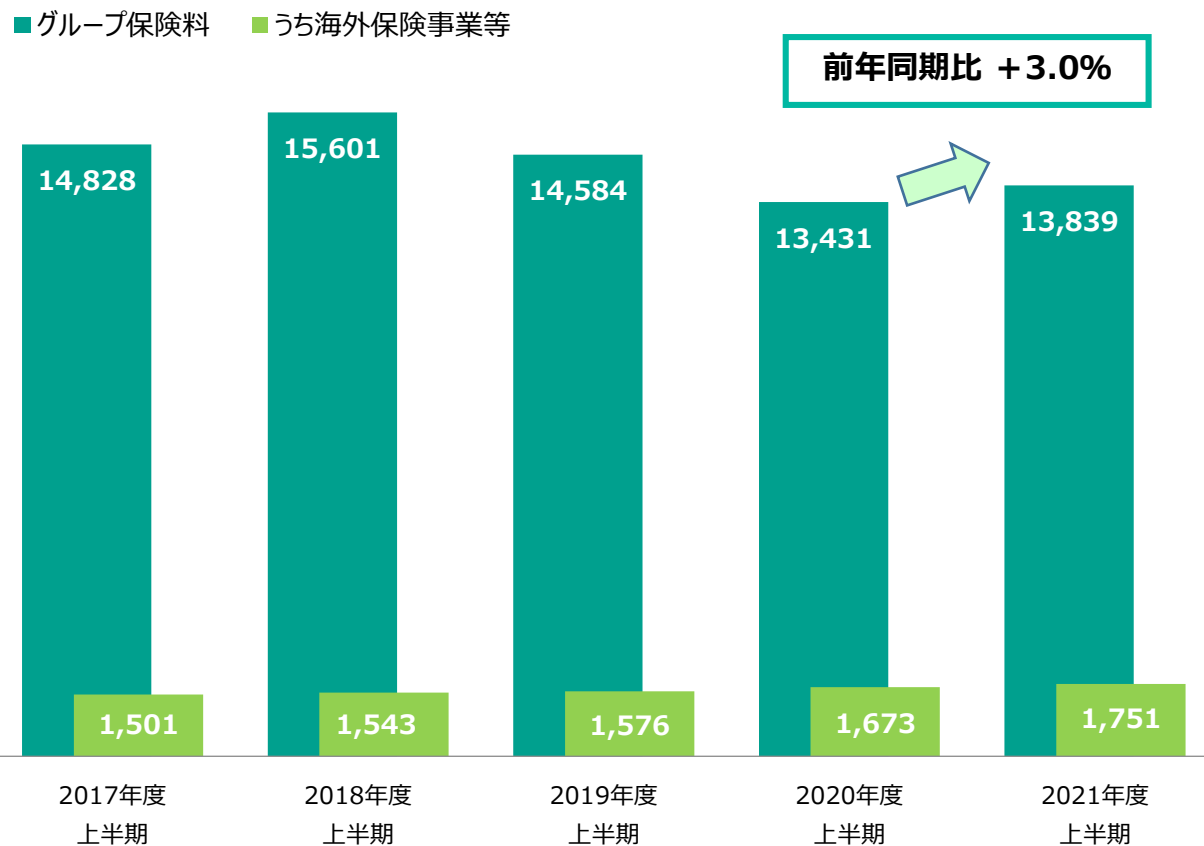


- (注1) グループ保険料は連結損益計算書上の保険料等収入
(注2) 海外保険事業等は、国内生命保険事業以外の合算。
なお、海外の子会社等は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、上半期グループ業績への反映期間は1月から6月までの6ヵ月

1. グループ保険料②

■ グループ保険料の推移

(単位：億円)



○ 明治安田生命単体・海外保険事業等ともに増収となり、グループ全体では前年同期から3.0%の増収

2. グループ基礎利益①

■ グループ基礎利益の状況

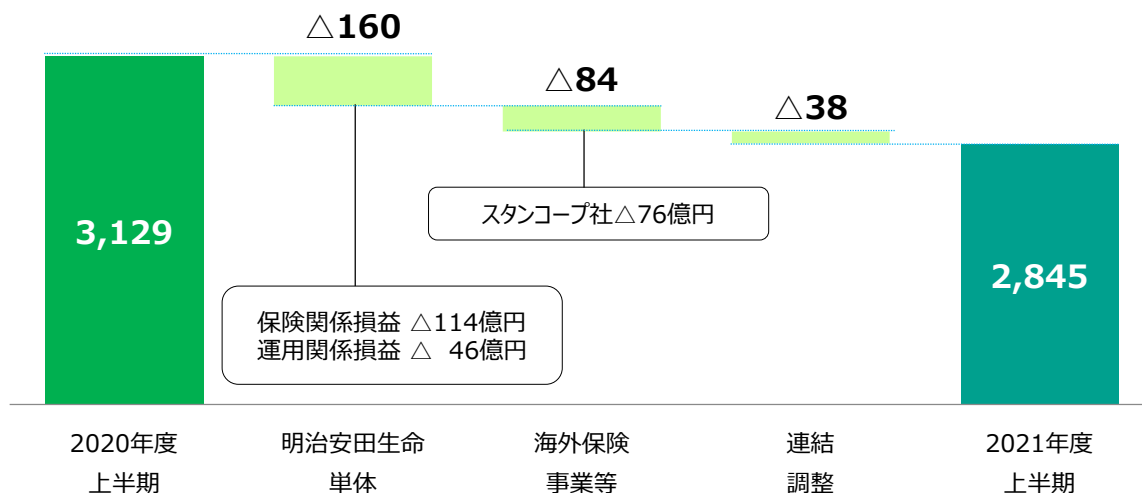
(単位：億円)

	2020年度 上半期	2021年度 上半期	前年同期比
グループ基礎利益 (注1)	3,129	2,845	△9.1%
うち明治安田生命単体	2,843	2,682	△5.7%
うち海外保険事業等 (注2)	314	229	△27.0%
うちスタンコープ社	230	153	△33.3%

- グループ基礎利益は、明治安田生命単体の危険差の減少を主因として、前年同期から9.1%の減益
- スタンコープ社ではコロナ起因の保険金等支払いの影響などにより前年同期から33.3%の減益

■ グループ基礎利益の主な増減要因

(単位：億円)



(注1) グループ基礎利益は、明治安田生命の基礎利益に連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益のうち明治安田生命の持分相当額を合算し、明治安田生命グループ内の内部取引の一部を相殺した数値

(注2) 海外保険事業等は、国内生命保険事業以外の合算。なお、海外の子会社等は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、上半期グループ業績への反映期間は1月から6月までの6ヵ月

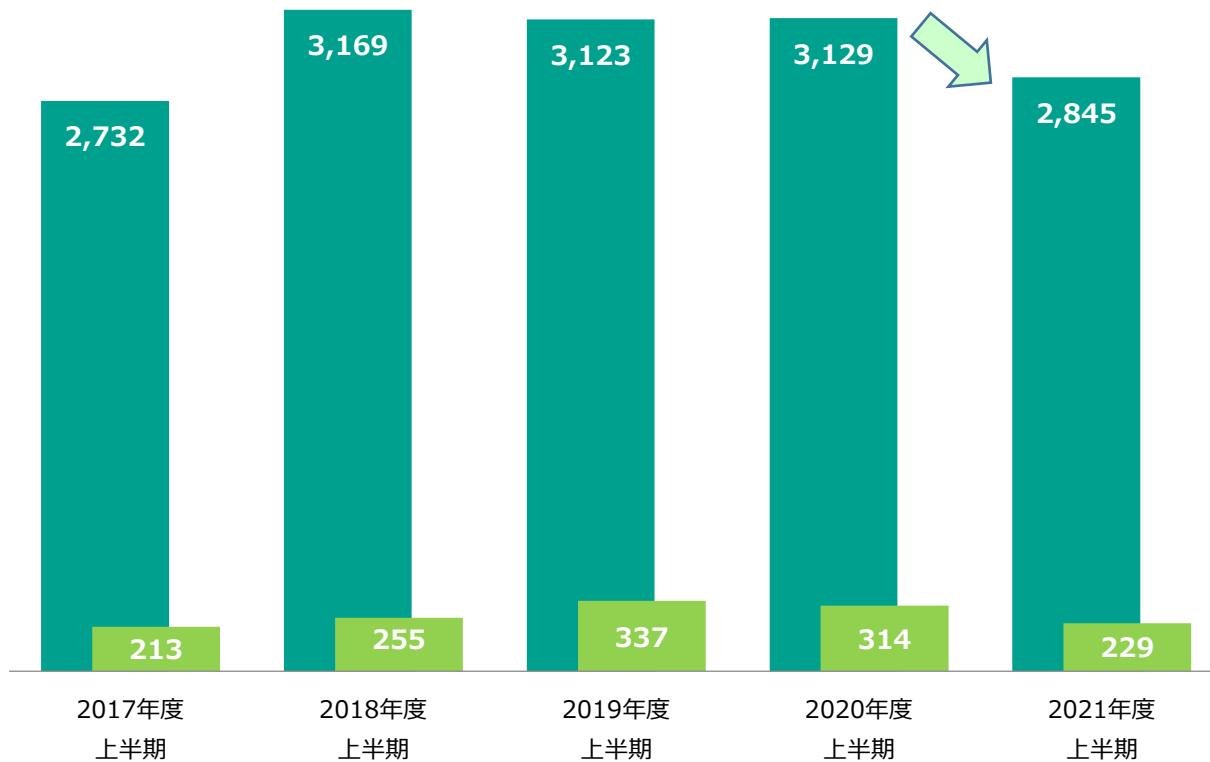
2. グループ基礎利益②

■ グループ基礎利益の推移

(単位：億円)

■ グループ基礎利益 ■ うち海外保険事業等

前年同期比 △9.1%



○ 前年同期から9.1%の減益となるも、引き続き高い収益性を確保

3. 健全性指標

■ 連結ソルベンシー・マージン比率

(単位：%)

	2020年度末	2021年度 上半期末	前年度末差
連結ソルベンシー・マージン比率 (注1)	1,152.5	1,132.3	△20.2ポイント

■ 企業価値 (グループサープラス)

(単位：億円)

	2020年度末	2021年度 上半期末	前年度末差
グループサープラス (注2)	73,700	77,900	+4,200

■ グループESR

(単位：%)

	2020年度末	2021年度 上半期末	前年度末差
グループESR (注3)	209	211	+2ポイント

○ 連結ソルベンシー・マージン比率は、金融環境の変動等の影響により前年度末から低下したものの、1,132.3%と引き続き高い健全性を維持

○ グループサープラスは、新契約の獲得、株価の上昇、外部資本調達を主因として、前年度末から4,200億円増加

(注1) 「ソルベンシー・マージン比率」とは、大災害や株価の暴落等、通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つ。この数値が200%を下回った場合、監督当局による業務改善命令等の対象

(注2) 経済価値ベースの企業価値を表す指標

(注3) 当社のリスク量全体（信頼水準99.5%）に対して十分な自己資本が確保できているかを示す経済価値ベースの指標

4. 連結損益計算書・連結貸借対照表

連結損益計算書

(単位：億円)

	2021年度 上半期	前年同期比
経常収益 (A)	19,860	△0.1%
うち保険料等収入	13,839	+3.0%
うち資産運用収益	5,549	△7.6%
経常費用 (B)	18,639	+2.1%
うち保険金等支払金	12,472	+2.3%
うち責任準備金等繰入額	1,805	+22.4%
うち資産運用費用	1,099	△24.4%
うち事業費	2,503	+5.7%
経常利益 (A - B)	1,221	△25.4%
特別損益	△140	-
法人税等合計	107	△27.2%
非支配株主に帰属する中間純剰余	0	+1.5%
親会社に帰属する中間純剰余	972	△26.8%

連結貸借対照表

(単位：億円)

	2021年度 上半期末	前年度末差
資産の部合計	466,373	+6,595
うち現預金・コールローン	11,049	△1,953
うち有価証券	380,315	+9,339
うち貸付金	49,450	+70
うち有形固定資産	9,109	+26
うち無形固定資産	4,135	+111
負債の部合計	420,887	+6,394
うち保険契約準備金	369,277	+6,613
うち責任準備金	358,290	+5,312
うち社債	6,685	+17
うちその他負債	31,133	△623
うち価格変動準備金	8,603	+91
うち繰延税金負債	4,184	+402
純資産の部合計	45,486	+201
うち基金・基金償却積立金	9,800	-
うち連結剰余金	3,292	△1,859
うちその他有価証券評価差額金	31,110	+1,519

1. 保険料等収入

■ 保険料等収入の状況

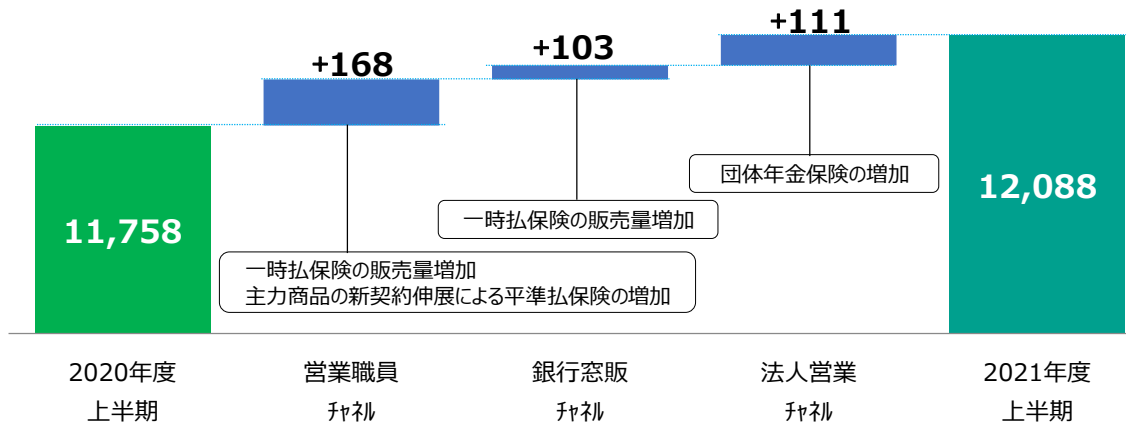
(単位：億円)

	2020年度 上半期	2021年度 上半期	前年同期比
保険料等収入	11,758	12,088	+2.8%
うち個人保険・個人年金保険	7,627	7,897	+3.5%
うち営業職員チャネル	6,312	6,480	+2.7%
うち平準払保険	6,026	6,078	+0.9%
うち一時払保険	285	402	+40.9%
うち銀行窓販チャネル	1,135	1,238	+9.1%
うち団体保険	1,424	1,451	+1.9%
うち団体年金保険	2,474	2,559	+3.4%

- 保険料等収入は、一時払保険の販売量増加や、営業職員チャネルにおける主力商品（ベストスタイル）の新契約の伸展、団体年金保険の増加を主因として、1兆2,088億円と前年同期から2.8%の増収

■ 販売チャネル別の主な増減要因

(単位：億円)



2. 新契約年換算保険料（個人保険・個人年金保険）

■ 新契約年換算保険料の状況（個人保険・個人年金保険）

（単位：億円）

	2019年度 上半期 【参考】	2020年度 上半期	2021年度 上半期	前年同期比 (2019年同期比)
新契約年換算保険料	502	409	517	+26.3% (+3.0%)
うち営業職員チャネル	436	351	451	+28.5% (+3.4%)
うち銀行窓販チャネル	55	50	58	+16.4% (+5.2%)
うち保障性商品 ^(注1)	238	237	300	+26.8% (+26.3%)
第三分野新契約年換算保険料 ^(注2)	194	153	226	+47.8% (+16.7%)

- 新契約年換算保険料は、対面営業を自粛していた^(注3)前年同期から26.3%増加
- 2019年同期との比較では3.0%増加しており、コロナ禍前の水準を確保

(注1) ベストスタイル等の総合保障型保険、医療・介護保険、ケガ保険、定期保険等を対象

(注2) 第三分野は、医療保障給付、生前給付保障給付、保険料払込免除給付等に該当する部分を計上

(注3) 2020年4月から同年6月まで対面営業を自粛

3. 保有契約年換算保険料（個人保険・個人年金保険）

■ 保有契約年換算保険料の状況（個人保険・個人年金保険）

（単位：億円）

	2020年度末	2021年度 上半期末	前年度末比
保有契約年換算保険料	21,952	21,825	△0.6%
うち営業職員チャンネル	16,273	16,236	△0.2%
うち銀行窓販チャンネル	5,223	5,137	△1.6%
うち保障性商品 <small>(注1)</small>	7,534	7,518	△0.2%
第三分野保有契約年換算保険料 <small>(注2)</small>	4,588	4,677	+1.9%

- 保有契約年換算保険料は、前年度末から0.6%減少とほぼ横ばい
- 第三分野保有契約年換算保険料は、前年度末から1.9%の増加

(注1) ベストスタイル等の総合保障型保険、医療・介護保険、ケガ保険、定期保険等を対象

(注2) 第三分野は、医療保障給付、生前給付保障給付、保険料払込免除給付等に該当する部分を計上

4. 保有契約高（団体保険・団体年金保険）

■ 保有契約高の状況（団体保険・団体年金保険）

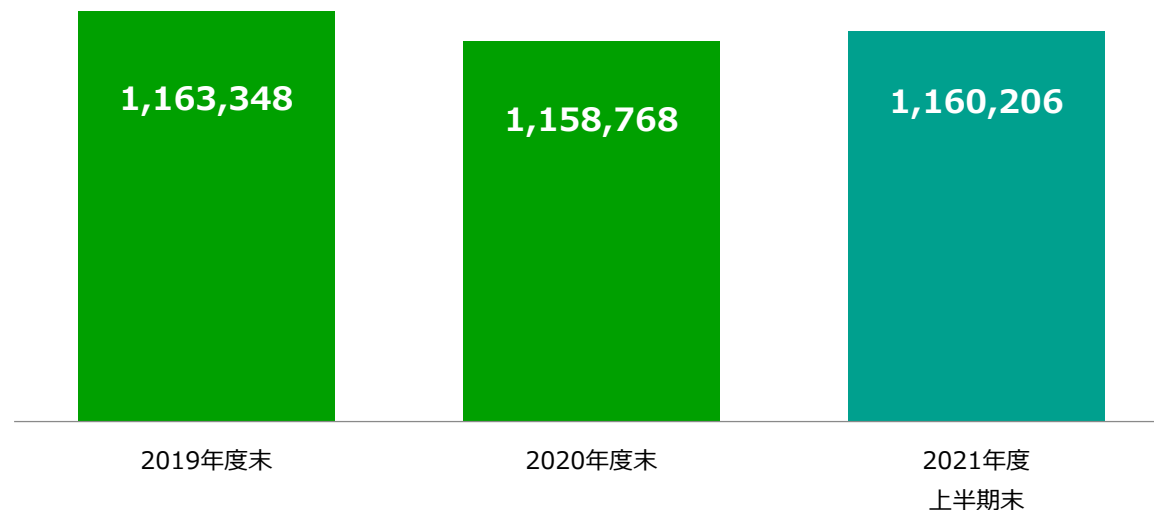
（単位：億円）

	2020年度末	2021年度 上半期末	前年度末比
団体保険	1,158,768	1,160,206	+0.1%
団体年金保険	78,430	78,846	+0.5%
（国内グループ） ^{（注）}	91,666	92,465	+0.9%

- 団体保険は116兆206億円と前年度末から0.1%増加。引き続き業界トップシェアを堅持
- 団体年金保険はグループ全体で9兆2,465億円と前年度末から0.9%増加

■ 団体保険の保有契約高の推移

（単位：億円）



（注）国内グループは明治安田生命単体および明治安田アセットマネジメントの合計

5. 基礎利益

■ 基礎利益等の状況

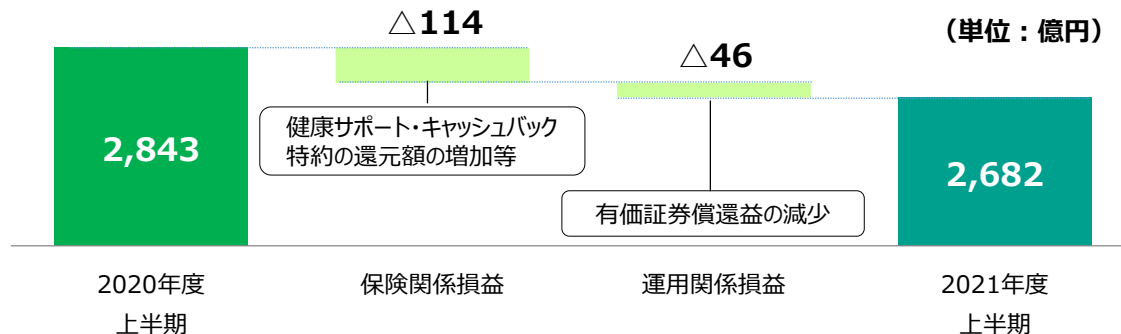
(単位：億円)

	2020年度 上半期	2021年度 上半期	前年同期比
基礎利益 (A) (注1)	2,843	2,682	△5.7%
保険関係損益	1,415	1,301	△8.1%
うち危険差	1,293	1,203	△7.0%
うち費差	97	70	△27.9%
運用関係損益	1,427	1,380	△3.3%
うち利差	1,459	1,429	△2.1%
キャピタル損益 (B)	△462	△213	—
臨時損益 (C) (注2)	△897	△1,320	—
経常利益 (A+B+C)	1,484	1,148	△22.6%

- 基礎利益は前年同期から5.7%の減益
- 保険関係損益は健康サポート・キャッシュバック特約の還元額の増加など、危険差の減少を主因として8.1%の減益
- 運用関係損益は有価証券償還益の反動減等のため3.3%の減益

■ 基礎利益の主な増減要因

(単位：億円)



(注1) 経営管理手法の変更に伴い、基礎利益を「保険関係損益」と「運用関係損益」に区分して表示する構成に変更

(注2) 臨時損益には、危険準備金繰入・戻入額および追加責任準備金繰入額等を含む

6. 資産運用収支

■ 資産運用収支の状況

(単位：億円)

	2020年度 上半期	2021年度 上半期	前年同期差
資産運用収支（全社）	4,327	4,205	△122
資産運用収支（一般勘定）	3,974	4,052	+77
資産運用収益	5,230	4,949	△281
利息及び配当金等収入	4,180	4,185	+4
有価証券売却益	387	292	△94
有価証券償還益	660	315	△344
為替差益	-	128	+128
資産運用費用	1,256	896	△359
有価証券売却損	79	64	△15
有価証券評価損	215	35	△180
有価証券償還損	330	84	△246
金融派生商品費用	220	452	+232
為替差損	171	-	△171

- 資産運用収支（一般勘定）は、4,052億円と前年同期から77億円増加
- 期末為替が対米ドル円安となったことに伴う為替差損益の改善や、株価上昇等に伴う有価証券評価損の縮小等が寄与

【参考】 2021年度上半期報告の運用環境

	2021年度 上半期末	前年同期末差
TOPIX	2,030.16	+404.67
日経平均株価（円）	29,452.66	+6,267.54
10年国債利回り（%）	0.065	+0.050
米国10年国債利回り（%）	1.487	+0.803
円相場（円/\$）	111.92	+6.12
円相場（円/€）	129.86	+5.69

7. 健全性指標

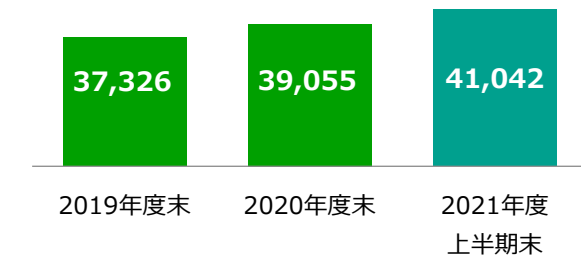
■ オンバランス自己資本

(単位：億円)

	2020年度末	2021年度 上半期末	前年度末差
オンバランス自己資本 ^(注)	39,055	41,042	+1,987

■ オンバランス自己資本の推移

(単位：億円)



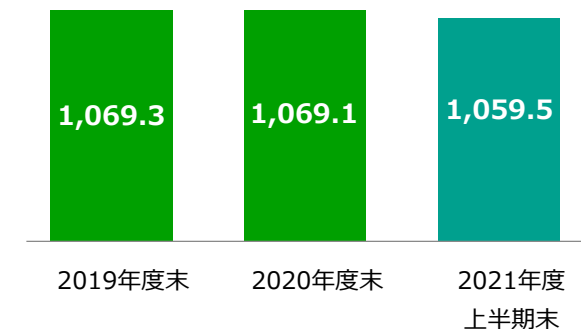
■ ソルベンシー・マージン比率

(単位：%)

	2020年度末	2021年度 上半期末	前年度末差
ソルベンシー・マージン比率	1,069.1	1,059.5	△9.6 ^{ポイント}
ソルベンシー・マージン総額	88,221億円	92,403億円	+4,181億円
リスクの合計額	16,503億円	17,441億円	+937億円

■ ソルベンシー・マージン比率の推移

(単位：%)



■ 実質純資産額

(単位：億円)

	2020年度末	2021年度 上半期末	前年度末差
実質純資産額	106,847	108,716	+1,869
一般勘定資産に対する比率	25.5%	25.8%	+0.3 ^{ポイント}

(注) 資本性が比較的強いと考えられる部分に限定した内部留保、外部調達資本等

8. 含み損益、国内株式含み損益ゼロ水準

■ 一般勘定資産全体の含み損益

(単位：億円)

	2020年度末	2021年度 上半期末	前年度末差
一般勘定資産全体の含み損益	65,224	67,855	+2,630
うち時価のある有価証券 (注1) (注2)	59,536	62,102	+2,565
うち公社債	22,601	22,540	△60
うち国内株式	29,794	31,441	+1,647
うち外国証券	6,045	6,615	+570
うち不動産	5,758	5,799	+41

- 一般勘定資産全体の含み損益は6兆7,855億円と前年度末から2,630億円増加
- 株価上昇による株式の含み益の増加が主因

(注1) 有価証券には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含む

(注2) 「国内株式」については、2021年度上半期末は、期末日における市場価格等に基づいて算出。2020年度末は期末前1か月の市場価格の平均等に基づいて算出

(注3) 日経平均株価ベースでは10,100円程度

■ 国内株式含み損益ゼロ水準

仮に当社ポートフォリオがTOPIXにフル連動するとした場合

	2020年度末	2021年度 上半期末 (注3)
TOPIXベース	670ポイント程度	690ポイント程度

9. 契約クオリティ（解約・失効・減額率、総合継続率）

■ 解約・失効・減額率^(注1)の状況（個人保険・個人年金保険）（単位：％）

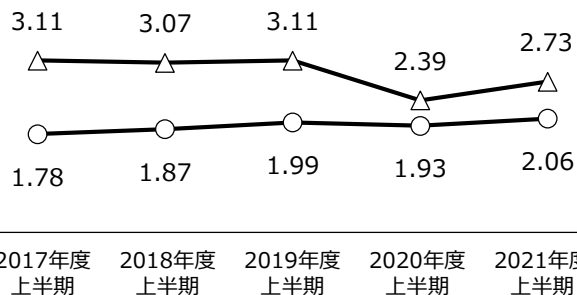
	2020年度 上半期	2021年度 上半期	前年同期差
個人保険・個人年金保険	1.93	2.06	+0.13 ^{ポイント}
うち主力商品 ^(注2)	2.39	2.73	+0.34 ^{ポイント}

■ 総合継続率^(注3)の状況（個人保険・個人年金保険）（単位：％）

	2020年度 上半期	2021年度 上半期	前年同期差
13月目総合継続率	95.0	95.3	+0.3 ^{ポイント}
25月目総合継続率	88.5	89.7	+1.2 ^{ポイント}
61月目総合継続率	70.8	71.0	+0.2 ^{ポイント}

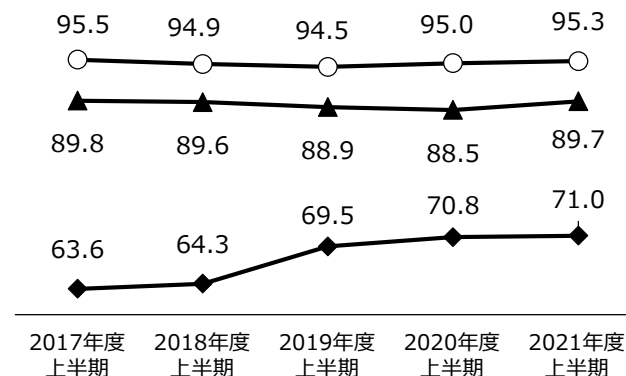
■ 解約・失効・減額率の推移（単位：％）

○個人保険・個人年金保険 △うち主力商品



■ 総合継続率の推移（単位：％）

○13月目総合継続率 ▲25月目総合継続率 ◆61月目総合継続率



- 契約クオリティを示す指標は、引き続き良好に推移
- 解約・失効・減額率は、前年同期と比べやや悪化するも、主力商品はコロナ禍以前の2019年同期より良好な水準となっており、依然として低位な水準を維持
- 総合継続率は、全回次（13・25・61月目）ともに高水準を維持

(注1) 年度始保有契約年換算保険料に対する解約・失効・減額年換算保険料の割合。保険料払込猶予中の契約は有効契約として算出

(注2) 「ベストスタイル」および「L.A.」における解約・失効・減額率

(注3) 総合継続率は、契約高ベースにて算出

10. 損益計算書・貸借対照表

損益計算書

(単位：億円)

	2021年度 上半期	前年同期比
経常収益 (A)	17,462	△1.0%
うち保険料等収入	12,088	+2.8%
うち資産運用収益	5,102	△8.6%
経常費用 (B)	16,314	+1.0%
うち保険金等支払金	11,198	+1.4%
うち責任準備金等繰入額	1,751	+21.9%
うち資産運用費用	896	△28.6%
うち事業費	1,856	+4.1%
経常利益 (A - B)	1,148	△22.6%
特別損益	△140	-
法人税等合計	79	△17.2%
中間純剰余	927	△24.5%

貸借対照表

(単位：億円)

	2021年度 上半期末	前年度末差
資産の部合計	428,915	+2,063
うち現預金・コールローン	10,152	△2,208
うち有価証券	360,453	+6,625
うち貸付金	40,001	△955
うち有形固定資産	8,699	+8
うち無形固定資産	848	△16
負債の部合計	383,995	+2,255
うち保険契約準備金	334,517	+2,627
うち責任準備金	329,774	+1,751
うち社債	6,407	-
うちその他負債	30,091	△752
うち価格変動準備金	8,591	+90
うち繰延税金負債	3,502	+393
純資産の部合計	44,919	△191
うち基金・基金償却積立金	9,800	-
うち剰余金	3,194	△1,903
うちその他有価証券評価差額金	30,404	+1,657

1. スタンコープ社の保険料等収入、基礎利益相当額、当期純利益

■ 保険料等収入、基礎利益相当額、当期純利益の状況 (注1)

(単位：億円)

	2020年度 上半期	2021年度 上半期	前年同期比 (注3)
保険料等収入	1,554	1,635	+5.2%
基礎利益相当額 (注2)	230	153	△33.3%
当期純利益	140	90	△35.7%

○ 保険料等収入は、主力である団体保険の新契約の伸展により、過去最高となる1,635億円と前年同期から5.2%の増収

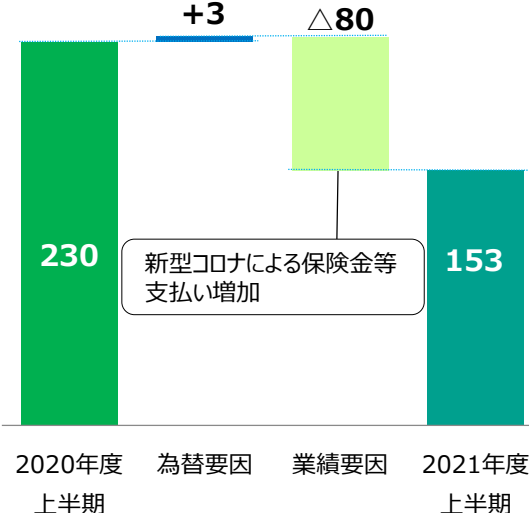
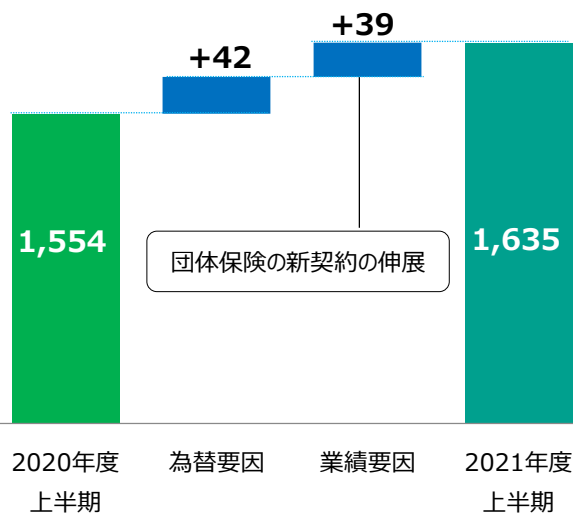
○ 基礎利益相当額および当期純利益は、コロナ起因の保険金等支払いの影響などにより前年同期を下回る

■ 保険料等収入の主な増減要因

■ 基礎利益相当額の主な増減要因

(単位：億円)

(単位：億円)



(注1) スタンコープ社は決算日が明治安田生命単体と3か月ずれるため、上半期グループ業績への反映期間は1月から6月までの6か月分

(注2) 基礎利益相当額は、税引前利益からキャピタル損益や買収会計に伴う無形資産償却費用等を控除したもの

(注3) 現地通貨ベースでの前年同期比は、保険料等収入+2.5%、基礎利益相当額△35.0%

※2020年度上半期は2020年6月末の為替レート(1米ドル=107.74円)、
2021年度上半期は2021年6月末の為替レート(1米ドル=110.58円)で円換算

2. 損益計算書・貸借対照表（スタンコープ社）^(注1)

損益計算書

(単位：億円)

	2021年度 上半期 (注2)	前年同期比 (注3)
経常収益 (A)	2,202	+6.9%
うち保険料等収入	1,635	+5.2%
うち資産運用収益	479	+11.2%
経常費用 (B)	2,097	+11.2%
うち保険金等支払金	1,222	+12.6%
うち責任準備金等繰入額	44	+28.6%
うち資産運用費用	197	+0.6%
うち事業費	531	+11.1%
経常利益 (A - B)	105	△39.4%
特別損益	△0	-
法人税等合計	14	△55.2%
中間純利益	90	△35.7%

貸借対照表

(単位：億円)

	2021年度 上半期末 (注2)	前年度末差 (注4)
資産の部合計	42,551	+4,336
うち現預金・コールローン	725	+271
うち有価証券	25,781	+2,666
うち貸付金	9,186	+1,008
うち有形固定資産	287	+13
うち無形固定資産	3,700	+192
負債の部合計	35,766	+4,137
うち保険契約準備金	34,000	+3,943
うち責任準備金	27,822	+3,518
うち社債	278	+17
うちその他負債	906	+200
うち繰延税金負債	479	△20
純資産の部合計	6,784	+199
うち資本剰余金	5,473	+350
うち利益剰余金	784	△15
うちその他有価証券評価差額金	593	△131

(注1) 米国の会計基準で作成した財務諸表を、日本の会計基準に準じて組み替え

(注2) 2021年6月末の為替レート(1米ドル= 110.58円)で円換算

(注3) 前年同期値は2020年6月末の為替レート(1米ドル= 107.74円)で円換算

(注4) 前年度値は2020年12月末の為替レート(1米ドル= 103.50円)で円換算

2021年度業績見通し

■ グループ保険料の見通し

	2021年度 見通し	前年度比	2020年度 実績
グループ保険料 ^(注1)	27,800億円程度	増加(104%)	26,693億円
うち明治安田生命単体	24,400億円程度	増加(104%)	23,521億円
うちスタンコープ社	3,100億円程度	増加(105%)	2,956億円

■ グループ基礎利益の見通し

	2021年度 見通し	前年度比	2020年度 実績
グループ基礎利益 ^(注2)	5,200億円程度	減少(90%)	5,798億円
うち明治安田生命単体	5,000億円程度	減少(91%)	5,502億円
うちスタンコープ社	240億円程度	減少(71%)	340億円

- 2021年度業績見通しは、2020年度決算報告時から変更なし
- グループ保険料は、一時払商品を含めた販売量回復等により「増収」となる見通し
- グループ基礎利益は、コロナ禍が継続する状況下において「減益」となる見通しであるものの、引き続き5,000億円台の水準を維持する見通し

※業績見通しは、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります

(注1) グループ保険料は連結損益計算書上の保険料等収入

(注2) グループ基礎利益は、明治安田生命の基礎利益に連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益のうち明治安田生命の持分相当額を合算し、明治安田生命グループ内の内部取引の一部を相殺した数値

特別取扱いの申込状況・保険金等の支払状況

■ 特別取扱いの申込状況（～2021年9月末）

	～2020年度	2021年度	合計
保険料払込猶予期間の延長 ^(注1)	1.3万件	0.14万件	1.44万件
新規契約者貸付に対する利息免除 ^(注2)	8.6万件	－	8.6万件

■ 保険金等の支払状況（～2021年9月末）

	～2020年度	2021年度	合計
死亡保険金	526件 31.5億円	507件 34.9億円	1,033件 66.5億円
入院給付金	8,060件 9.8億円	17,809件 20.4億円	25,869件 30.2億円
みなし入院	5,145件 5.1億円	14,565件 14.8億円	19,710件 20.0億円

- 緊急事態宣言対象地域のご契約に対する保険料払込猶予期間延長は累計で1.44万件を取扱い
(東日本大震災の際の0.8万件を超過)

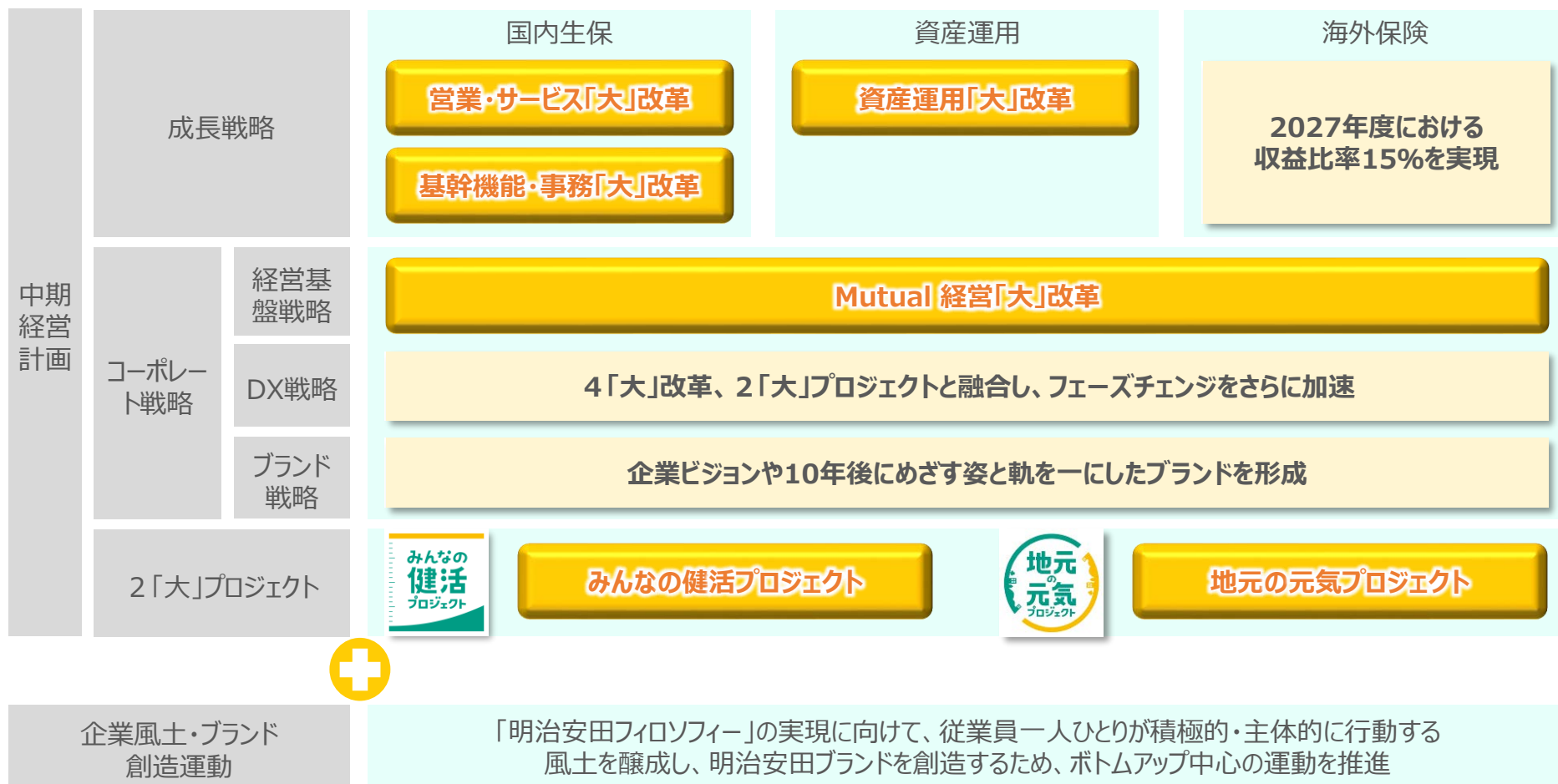
- 新型コロナを原因とした死亡・高度障害保険金は累計で66.5億円、臨時施設（ホテル等）または自宅療養によるみなし入院を含む入院給付金は累計で30.2億円をお支払い

(注1) 保険料払込猶予期間の延長は最長6カ月

(注2) 受付期間は2020年6月30日まで

「MY Mutual Way I 期」の全体像

「MY Mutual Way I 期」



経営目標の上半期末進捗状況

		中期経営計画 目標	2021年度 上半期末実績	前年度比/差 (注4)
企業価値	グループサープラス	13%成長 (年平均4%成長)	77,900億円	+5.7%
健全性	グループESR	安定的に165%以上 (当面は220%をめざす)	211%	+2ポイント
	オンバランス自己資本	4.4兆円	4.1兆円	+0.1兆円
収益性	グループ基礎利益	5,500億円	2,845億円	△9.1%
成長性	保有契約年換算保険料〔保障商品〕	7,700億円	7,518億円	△0.2%
	団体保険保有契約高	国内シェアNo.1	116.0兆円	+0.1兆円
	お客さま数	1,235万人	1,211万人	+2.4万人
	うち個人営業 (注1)	723万人	713万人	+5.1万人
	うち法人営業 (注2)	513万人	498万人	△2.7万人
	アドバイザー数 (注3)	38,000人	36,932人	+196人

(注1) アドバイザー等チャネルの生命保険契約者(すえ置・年金受取中を含む) + 生命保険被保険者 + 損害保険契約者(重複を除く)

(注2) 任意加入の団体保険加入者(当社単独・幹事契約の本人・配偶者被保険者) (注3) 目標値は2024年4月1日時点。上半期末実績は2021年10月1日時点

(注4) 「グループ基礎利益」は前年同期比、それ以外は前年度末比/差